

令和元年9月1日に思う

村づくりの指針に誤りがないことを再認識しました。

先月、経済産業省からお声がけをいただき、私と本村の職員1名が同省を訪問しました。同省では、省庁間の垣根をこえた中堅・若手職員が、話題のキーパーソンを招いて「元気化プロジェクト・中小企業政策勉強会」というものを毎月開催しているようです。今回、その講師として本村職員に白羽の矢が立ったということです。

当日は約60人の参加者の前で、スクリーンに資料を映しながら講演し、一般社団法人かわかみらいふなど「水源地の村づくり」の取り組みを詳しく説明しました。

「源流を守ることの意義」や「地域で支え合うことの大切さ」について、持ち時間をこえて熱く語っていました。手前味噌ではありますが、その内容もプレゼン力も立派で、間違いなく“わが川上村が伝わった”と確信しています。

会場からは、「人と人との関わり合いによって、村を丸ごと守っていく取り組みに刺激をいただいた」や「高い志を持つ行政職員が一人でも増えていくことが、日本の将来を明るくすることにつながると信じている」等々、多くの励ましと称賛の声をいただきました。あらためまして、このような機会をいただいた経済産業省に深く感謝するとともに、多くのキャリアの皆さんにわが村を知っていただき、かつ地域の課題も共有できたことが何よりもの成果です。今回いただいたこのご縁を積極的に活用し、今後も水源地の村づくりに取り組んでいきます。